



## (2) 都市づくりの理念

平成 16 年（2004 年）3 月に策定した都市づくりの全市的指針となる「札幌市都市計画マスタープラン」では、これまでの拡大成長期の都市づくりから基本方向を見直し、『持続可能なコンパクト・シティへの再構築』を都市づくりの理念としています。

都市全体の視点からは、市街地の拡大抑制を基調として、既存都市基盤を有効に活用しながら都市の魅力と活力を向上させることとし、身近な地域の視点では、主として徒歩での移動が可能な身近な生活圏の中で、日常的な生活を支える多様な機能がまとまりをもって提供されることを目指しています。

また、今後の都市づくりにおける総合的な取り組みとして、「①都心の再生・再構築」「②多中心核都市構造の充実・強化」「③多様な住まい方を支える高い居住環境の実現」「④市街地の外の自然環境の保全と活用」「⑤オープンスペース・ネットワークの充実・強化」を都市づくりの力点と位置付けています。

「札幌市都市計画マスタープラン」では、部門別の取組方針のひとつとして「交通」を位置付けており、以下の基本方向を定めています。

### <基本方向（交通）>

#### ■総合的な交通ネットワークの確立

- ・公共交通を軸とした交通体系の確立
- ・必要な道路の整備や自動車交通総量の低減、流れの分散化などにより適切な自動車交通の実現
- ・広域的な交通に関わる安定的で利用しやすいネットワークの確立

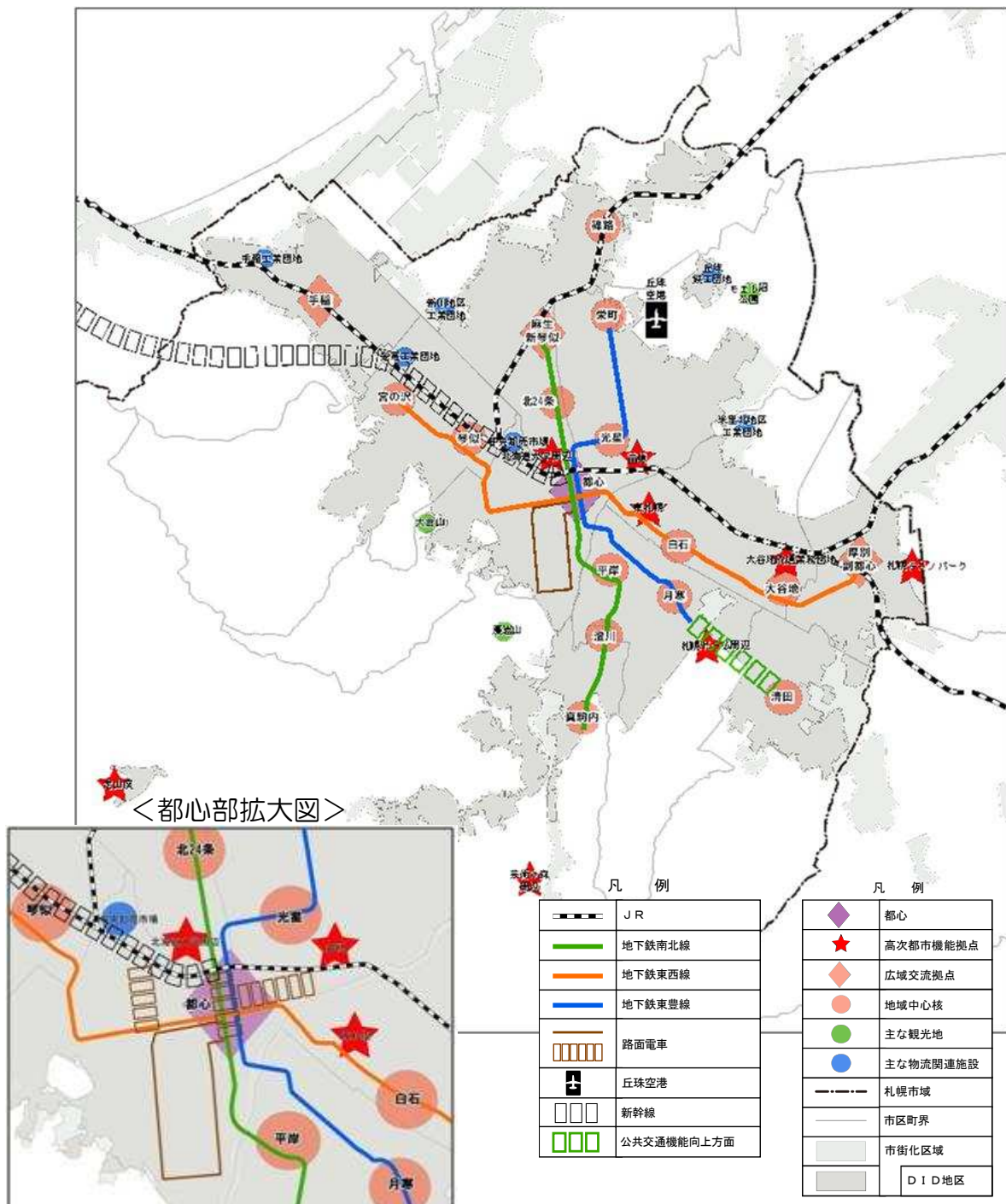
#### ■地域特性に応じた交通体系の構築

- ・地域特性やまちづくりの方向を踏まえた交通体系の構築

### (3) 路面電車の役割

「第4次札幌市長期総合計画」及び「札幌市都市計画マスタープラン」を受けて平成24年(2012年)1月に策定した「札幌市総合交通計画」では、超高齢社会の到来、将来的な人口減少、地球環境問題への対応等を踏まえ、公共交通に対する意識の醸成や、利用者の利便性向上等の質的レベルアップを図ることにより、公共交通を軸とした交通体系の確立することとしています。

また、公共交通ネットワークの機能として、路面電車については、「都心や都心周辺部での利便性の高い生活を支えるとともに、観光客などの来訪者にも分かりやすく、その特性を生かし魅力ある都心の創造等に寄与するよう活用を図る」こととしています。



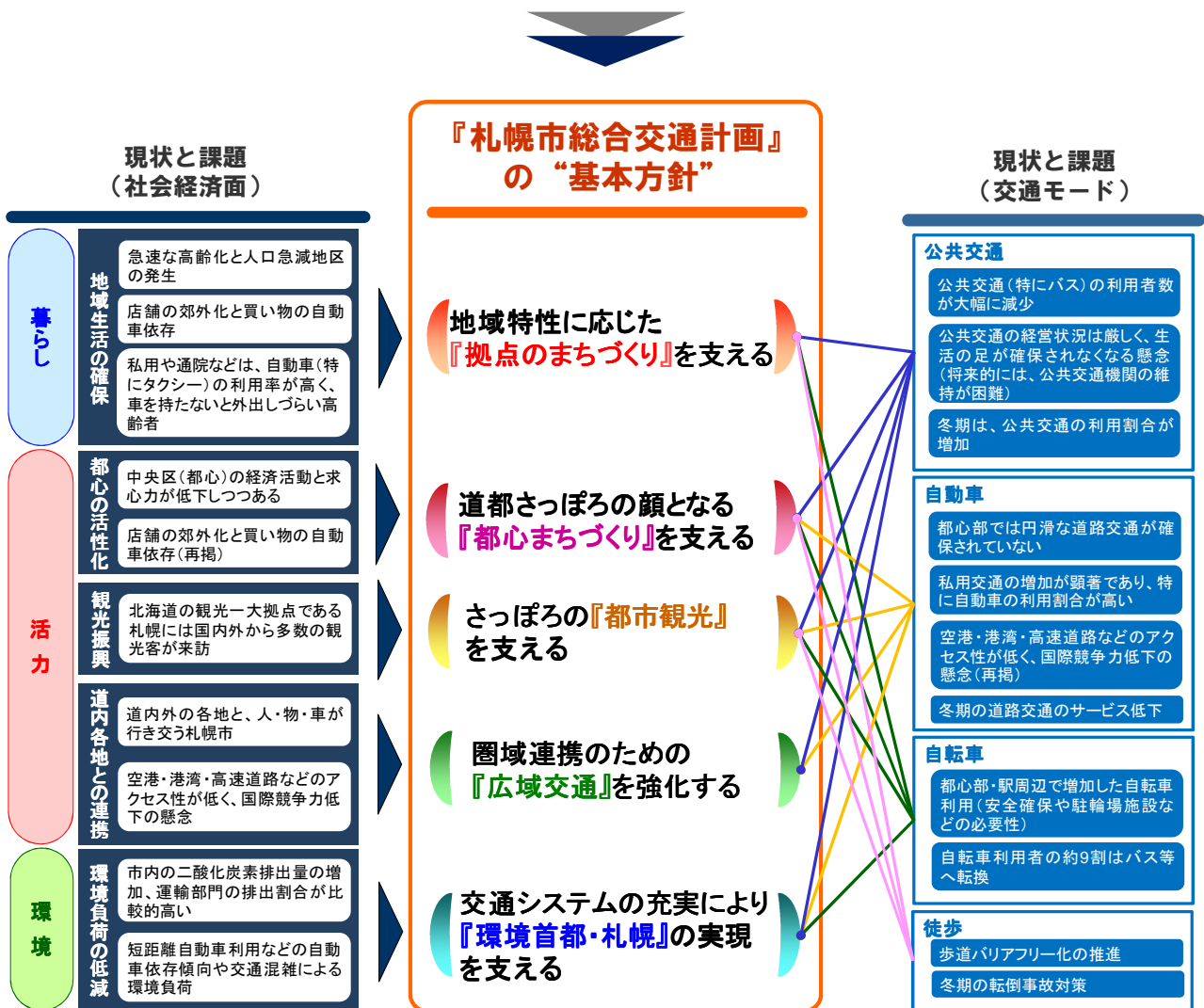
## 2-2 基本方針の設定

札幌市総合交通計画の計画理念を踏まえたうえで設定された基本方針をもとにして、本計画の対象事業である路面電車の取組に関する基本方針を設定します。

### 『札幌市総合交通計画』の“計画理念”

「暮らし」・「活力」・「環境」を重視する公共交通を軸とした交通体系の実現

～あるべき将来都市像を実現する「バランス」を考慮した都市交通を目指して～



## 『札幌市地域公共交通総合連携計画』の“基本方針”

### 暮らし

#### 地域特性に応じた『拠点のまちづくり』を支える

日常生活を支える各拠点の特性に合わせ、地域の魅力を引き出すとともに、多様な商業・業務機能、行政機能などの各種都市サービス機能を支援するため、市民にとって暮らしやすく移動しやすい生活交通を目指し、公共交通が使いやすい環境の創出など安全・安心な交通環境の向上を図ります。

### 活 力

#### 道都さっぽろの顔となる『都心まちづくり』を支える

都心部においては、通過するだけの unnecessary 自動車利用を抑制し、人を中心とした安心・安全な都心交通環境を創出する一方で、市民活動・経済活動の活性化を図ります。

#### さっぽろの『都市観光』を支える

年間約 1,260 万人の観光客が訪れる札幌市においては、外国人なども含む多様な来訪者へ対応する必要性が高まっており、さっぽろの魅力をより一層楽しんでもらうため、利便性の高い交通サービスの提供を図ります。

#### 圏域連携のための『広域交通』を強化する

広域的な拠点間の連携強化を図ることにより、都市の活力を向上させるため、市内における高次医療施設等の都市施設や観光地、他の集客施設へのアクセシビリティ向上を図ります。

### 環 境

#### 交通システムの充実により『環境首都・札幌』の実現を支える

環境首都を目指す札幌市においては、公共交通の利用促進や自動車利用の適正化を図るとともに、各交通モードの円滑性や連続性を向上させるなど環境負荷の低減による持続可能な低炭素型の交通システムの充実を図ります。

### 2-3 数値目標の設定

基本方針である「拠点まちづくり」「都心まちづくり」「都市観光」といった観点を踏まえ、路面電車の取組による数値目標としては、公共交通としての利便性の指標となる「利用者数」のほか、まちづくりに資する都市基盤の整備による「都心の景観性」の2つを設定します。

- 『路面電車の利用者数』（1日平均乗車人員）

平成14年度・・・21,382人

平成23年度・・・20,359人

平成32年度（目標）・・・現状より増加

- 『大通地区地上部の魅力度』（魅力的な場所だと思う人の割合）

平成23年度・・・52.4%

ループ化後・・・63.5%

※目標数値の63.5%は、大通地上部が現在魅力的であるかとのアンケートで、「魅力的である」とした回答数と、「あまり魅力的ではない」「どちらとも言えない」と回答し、魅力的になるには「景観性の向上」あるいは「特徴のある建物、空間づくり」とした回答数を合計したものの。

Q:駅前通が、賑わいのある魅力的な場所だと思うか。

回答	休日調査	
	回答数	割合
魅力的である	259	52.4%
どちらとも言えない	165	33.4%
あまり魅力的ではない	70	14.2%
合計	494	100%

Q:駅前通が魅力的な場所となるために必要なものはどれか。

回答	休日調査	
	回答数	割合
景観性の向上	23	9.8%
特徴のある建物、空間づくり	32	13.6%
店の種類等の工夫	50	21.3%
イベントの活性化	34	14.5%
歩きやすさの改善	38	16.1%
路上駐車や交通量の削減	22	9.4%
その他	0	0%
無回答、わからない	36	15.3%
合計	235	100%